

比較文化論 : 大項目別報告 : 身体変工 2400

著者	高谷 紀夫
雑誌名	国立民族学博物館研究報告別冊
巻	011
ページ	87-91
発行年	1990-03-10
URL	http://doi.org/10.15021/00003665

身体変工 2400

高谷紀夫*

- | | |
|---------|-----------------|
| 1. 頭部変工 | 4. 瘢痕文身と刺青 |
| 2. 歯牙変工 | 5. 身体変工と文化要素間関係 |
| 3. 割礼 | 6. おわりに |

身体変工の項目には文化要素として10種の習俗が選定されている。ここではまずそれぞれの分布状況について、中間報告からデータとして加わったオセアニアにとくに注目しながら報告する。そのさいオセアニアの身体変工の分布に関係するポリネシアの哀悼傷身(4109)についての石川榮吉の論考[石川 1985]を参照したい。

1. 頭部変工

頭蓋変形(2401)のデータは6民族からにすぎず、ニューギニアの Seltaman を除いてはいずれも海に面した民族に限られている。一方、耳朶穿孔(2402)は125民族から報告され、東南アジアからオーストラリア・アポリジニをのぞくオセアニアにひろく一般的に分布する習俗である。また鼻栓(2403)は33民族に分布しているが、とくにニューギニア(19例)と隣接するメラネシア(9例)に集中しているのが特徴で、東南アジア大陸部はまったくの空白であり、その他の地域でも非常に少ない。

2. 歯牙変工

歯牙変工の習俗として3文化要素が設定されている。涅歯(2404)の習俗分布は36民族を数える。分布の中心は東南アジア大陸部のベトナムからタイにかけての紅河流域とそれに隣接するメコン川上流地域の民族、そして台湾からフィリピン・インドネシアに連なるオーストロネシア系言語を話す民族で、後者は16民族にわたる。オセア

* 鹿児島大学教養部

ニア地域の6民族にも分布するが、ポリネシアからの報告はまったくない。

抜歯(2405)習俗があると報告される12民族のうち10民族がオーストロネシア系民族であり、うち4民族は台湾の高山諸族で、残り2民族は Vietnamese と Nimo である。この分布の特徴は日本の縄文時代の抜歯習俗の系譜を考える意味でも興味深い。

欠歯(2406)の習俗は35民族で認められるが、その分布においてオセアニアはニューギニアに2例あるもの他はまったくの空白である。しかしまったくの空白とは思えない。というのは、ポリネシアでは哀悼傷身の意味での欠歯(2406)の習俗は少ないけれども皆無ではない。Hawaii, Tonga から報告されている[石川 1985: 365-366]。哀悼傷身(4109)の慣行が広く分布しているにもかかわらずである。概観的には矛盾しないが、過去にさかのぼってインプットされていないデータがまだありそうである。欠歯(2406)の習俗の分布は Andamanese などの採集狩猟段階の民族から Balinese など階層制を発達させた民族にまでわたり、習俗と生業形態や社会構造との明示的関連は認められない。だが、言語的に分布する民族35例中、27例がヘスペロネシア系であることは注目に値する。

全体として歯牙変工の3習俗は、いずれもオセアニアに分布がわずかであることで共通しており、石川の分析とつきあわせると東南アジア、しかも島嶼部的な習俗であることは明らかである。しかも涅歯(2404)、抜歯(2405)習俗の分布で指摘したオーストロネシア系のなかでは、ヘスペロネシア系諸民族がかなりの割合を占め、欠歯(2406)習俗ともその特徴が重なっている点は重要と思われる。

個別的には、歯牙変工の3文化要素の中で、涅歯(2404)は言語的にオーストロネシア系に比べて少数ながらチベット=ビルマ系の Jinuo, Achang そしてタイ系の Tai, Black Tai, White Tai さらにはモン=クメール系をもふくんでおりもっとも多くの言語グループにわたっている。一方、欠歯(2406)では、Mnong Gar, Bahnar, Semang などのモン=クメール系民族をふくむが、チベット・ビルマ系およびタイ系民族はふくまれていない。抜歯(2405)についてはさききのべた通りである。したがって涅歯(2404)の習俗の系譜は、他の抜歯(2405)、欠歯(2406)の文化的背景にくらべてより多岐であることが類推されるのである。たとえば、ヘスペロネシア系民族の歯牙変工は人の一生に関係する脈絡を背景としているのにたいして、Vietnamese, Cambodian などの涅歯(2404)の歯牙変工は、階層制などの発達した社会組織を背景にした習俗であり、大陸部の高文化の影響と思われるのである。

歯牙変工について興味深い点はその相互関係である。歯牙変工内の文化要素間で涅

歯 (2404) と欠歯 (2406) が13民族において重複する。これにたいして、抜歯 (2405) が他のふたつの歯牙変工と重複する場合、それぞれ涅歯 (2404) と抜歯 (2405) が共存するのは Vietnamese, 欠歯 (2406) と抜歯 (2405) が共存するのはニューギニアの Nimo のそれぞれ1民族にすぎず、しかもいずれも非オーストロネシア系である。したがって、オーストロネシア系民族内での抜歯 (2405) 習俗は、涅歯 (2404) および欠歯 (2406) の習俗と分布に関するかぎり排他的傾向がある。このことは抜歯 (2405) 習俗の独自の系譜と、涅歯 (2404) と欠歯 (2406) の習俗が歯牙変工の連続する様式である可能性を示唆するものと考えられる。

3. 割 礼

環状割礼 (2407) は35民族から、表部割礼 (2408) は22民族から報告されている。いずれも東南アジア大陸部にはみられず、島嶼部およびオセアニアに分布している。前者についてはマダガスカルから6民族とリストアップされたほとんどの民族から報告されている。そのほか、オセアニアではメラネシアから6例がデータとしてインプットされ、またスマトラの諸民族、さらにはオーストラリア・アボリジニからも報告されている。後者の習俗は、とくにメラネシア・ポリネシアに地域的にひろがって分布しており、ニューギニアを加えると15民族を数える。地域的には後者の方がよりオセアニアの東方へ広がっている。環状割礼 (2407) と表部割礼 (2408) で重複する民族は Tagalog と Lau の2民族にすぎず、系統の違いを示唆している。環状割礼 (2407) の分布について特徴的なことは35民族中21民族がヘスペロネシア系である点である。Malay, Negri Sembilan Malay などについては現在では割礼の宗教的背景も認められるかもしれないが、マダガスカルの分布はその習俗が東南アジアでのイスラム教定着以前の習俗であることを類推させる。

4. 瘢痕文身と刺青

瘢痕文身 (2409) は32民族から報告されている。その分布は西は Andamanese, Nias そしてマレー半島の Semang, Senoi から、東はポリネシアの Hawaii, Society に渡っているが、とくにニューギニアをふくめたオセアニア地域の分布がより顕著である。

刺青 (2410) は99民族にその分布がのほり、オーストラリアをのぞいてほぼ一般的に分布しているのが特徴である。Hawaii の刺青については、哀悼の文化的背景が指

摘され、かつ他のポリネシア地域ではみられないとされている [石川 1985: 365] が、このポリネシア地域の Easter までにいたるひろい分布はその脈絡で注目すべきデータであり、刺青 (2410) の系譜と変遷を考える意味でも興味深いといわざるを得ない。

5. 身体変工と文化要素間関係

次に他の大項目を含めて文化要素間の相関関係について考察してみよう。

頭蓋変形 (2401) は家畜としてのブタ (1321) と6/6で (6民族中6例, 以下同様) すべて重なっている。耳朶穿孔 (2402) もやはり家畜としてのブタ (1321) とで108/125, 鼻柱 (2403) はタロイモ栽培 (1301) とで28/33, 涅齒 (2404) は焼畑耕作 (1312) と33/36で最も重なっている。そのほかにも家畜としてのブタ (1321) と32/36, ついでキンマ噛み (1404), 婚資 (3204), 単純土葬 (4101) と30/36の割合で重なっている。抜歯 (2405) は槍 (2815) と12/12でもっとも重なり, またタロイモ栽培 (1301) と家畜としてのブタ (1321) とは11/12で重なっている。欠歯 (2406) は, 家畜としてのニワトリ (1320), キンマ噛み (1404), 杵上家屋 (2107) の3文化要素との30/35の割合がもっとも数値が高い。環状割礼 (2407) は家畜としてのニワトリ (1320) と26/35の割合でもっとも重なっている。表部割礼 (2408) はタロイモ栽培 (1301), 槍 (2815) との数値が18/22で最高値となっている。癍痕文身 (2409) は, 掘棒 (1313) との重なりがもっとも高くその数値は27/32である。刺青 (2410) は単純土葬 (4101) と79/99ついで家畜としてのブタ (1321) が74/99でつづいている。

以上はあくまでも身体変工の側からみた重複であり, 相関関係を考えるには逆に重複される側からたどる必要がある。しかしながら, 143民族にわたるタロイモ栽培 (1301), 174民族を数える家畜としてのブタ (1321), 158民族の家畜としてのニワトリ (1320) などとの相関関係はその総数からいってとくに注目すべきものではない。ただし, 狩猟・採集民 (1113) 20民族との重複が, たとえば耳朶穿孔 (2402) で8/25, 刺青 (2410) で4/99に代表されるように少ない。したがって, 身体変工の慣習の発達は焼畑耕作 (1312) などの初期農耕段階以降と認めてよいであろう。また口部に関係があることで歯牙変工のとくに涅齒 (2404), 欠歯 (2406) 習俗とキンマ噛み (1404) の慣習との重複は文化的に関連する可能性を示唆している。

身体変工は身体に刻まれた世界観の表徴であり, 習俗の文化的脈絡としては成人式や首長や近親者の死にさいして行われる傾向がある。身体変工の文化的背景を探る意味で大項目の出産・成長 (3100) および死・葬制 (4100) との相関関係に注目してみ

たい。しかしながら、出産・成長（3100）については、全体として高い相関関係（あるいは逆相関関係）は認められない。たとえば集団的成年式の有無（3109）の慣習は50民族から報告されているが、重複するのが耳朶穿孔（2402）で29/125民族に留まっている。また若者宿（3107）が分布する55民族のうち、耳朶穿孔（2402）が分布するのは38/125民族であり、刺青（2410）が24/99民族である。耳朶穿孔（2402）あるいは刺青（2410）には個人的な装飾としての機能もあり、かならずしも集団的成人式（3109）などとは結びつかないことを示している。一方、死に関する習俗のひとつである哀悼傷身（4109）は24民族から報告されているが、その中の3分の2の16民族は刺青（2410）の慣習をもっている。一方、癍痕文身（2409）との重複は4民族にすぎない。したがって刺青（2410）は全体では99民族に分布しているが、哀悼傷身（4109）とは技術的に重なる文化要素とみなせそうである。だが、癍痕文身（2409）と哀悼傷身（4109）については逆相関の傾向がみられる。

6. お わ り に

身体変工の分布について全体的にいえることは、耳朶穿孔（2402）および刺青（2410）の広汎な分布、そしてニューギニアに集中する鼻栓（2403）をのぞいて、ヘスペロネシア系民族と身体変工の習俗との結びつきが顕著であることである。したがって身体変工の系譜およびその変容について考察するさい、大陸部の涅齒（2404）習俗に象徴される高文化影響地域、島嶼部のヘスペロネシア系民族、表部割礼（2408）の分布に代表されるオセアニアの非ヘスペロネシア系民族の3地域の類別が指針となるであろう。